

「民藝 MINGEI—美は暮らしのなかにある」7月8日開幕

展覧会限定グッズや注目ポイントなど 新情報を一挙ご紹介

会期：2023年7月8日(土)～9月18日(月・祝)

会場：大阪中之島美術館（大阪市北区中之島4丁目3-1）

大阪中之島美術館（所在地：大阪市北区／館長：菅谷 富夫）は、「民藝」をテーマにした『民藝 MINGEI—美は暮らしのなかにある』を、7月8日(土)～9月18日(月・祝)の期間、開催いたします。つきましては、7月8日(土)の開幕に先立ち、**展覧会限定グッズや注目ポイントなど新情報**をお知らせいたします。

思想家・柳宗悦が「民藝」の概念を説いてから約100年。「衣・食・住」をテーマに、暮らしで用いられてきた美しい民藝の品々約150件を展示し、民藝の作り手と受け継がれる手仕事も紹介します。

ポイント① 染色家／アーティスト・宮入圭太さんが、描きおろし型染絵を制作！

いま注目の染色家／アーティスト、宮入圭太さんが、本展のために描きおろし作品を制作しました。手作業から生み出された、**世界にひとつの型染め絵**です。展覧会場で公開予定。お楽しみに！



本展のために制作された型染絵



宮入圭太（みやいり・けいた）
染色家／アーティスト。柳宗悦の思想に惹かれ、民藝を学び、民藝と向き合いながら作品を制作している。ユニクロのフリーマガジン『LifeWear magazine』2022年秋冬号の特集、表紙に採用され、2023年1月には伊勢丹新宿店で作品展を開く等、注目を集めます。

★宮入さんが語る、作品に込められた意味と本展への想い★

作品に描かれた、ちょっと不思議で可愛いモチーフには、どんな意味が込められているのでしょうか。「民藝展のために新作を作るよう依頼を受けて、すぐに学校や児童館に貼ってあった啓発ポスターが思い浮かび、このデザインになりました。柳宗悦の仏教美学、美信一如*の教えを簡単にシンボル化して表現しています」。

柳宗悦の思想に大きく影響を受けながら創作をしている宮入さん。「来て下さるみなさんもその奥深さに触れる機会になつてもらえればうれしい」。そのほか、宮入さんが語る型染めの魅力や柳宗悦への想いを、本展公式Twitter/Instagramで紹介していきます！ぜひチェックしてみてくださいね。

*美信一如（びしんいちによ）：人の心に働きかける人知を超えた偉大な力が、同じように物にも働きかけるという考えを柳宗悦が言い表したことば。

ポイント② 本展でしか手に入らないグッズの一部を紹介！

宮入さんがデザイン監修した本展オリジナルグッズも続々登場！本展会場のみでの販売です。
ぜひご来場の上お求め下さい。

※写真は商品の一部です ※商品画像はイメージ、価格未定



Tシャツ



トートバッグ



飴の小箱

★グッズセット券限定！宮入さんオリジナルアートサコッシュ 好評販売中★

宮入さんが描きおろしたオリジナルアートのサコッシュと、本展観覧券1枚がセットになったお得なチケット（税込3,200円、数量限定）をローソンチケットで販売中！会場では手に入らないデザインです。詳細は展覧会公式サイトへ。



グッズセット券限定サコッシュ

※このサコッシュの会場販売はありません。同サイズで別デザインのサコッシュを1,800円（税込）で会場販売予定です。



宮入さんオリジナルアート

ポイント③ MOGI Folk Art (東京・高円寺) の魅力的なアイテムも並ぶ 本展特設ショップ！

本展覧会の第Ⅲ章「ひろがる民藝－これまでとこれから」で、いまの暮らしに融合した“これからの民藝スタイル”としてインスタレーション展示を予定しているMOGI Folk Artのテリー・エリス/北村恵子。1990年代からセレクトショップのバイヤーとして、服飾や北欧インテリアと組み合わせて民藝を紹介してきた、現在の民藝ブームの先駆者といえる存在です。2022年秋には自身のショップ「MOGI Folk Art」を東京・高円寺にオープンし、日本の民藝だけでなく世界で見つけたフォークアートを紹介しています。

本展では、二人が自宅で愛用するコレクションやインテリアをインスタレーション展示で見られるだけでなく、MOGI Folk Artが全国各地でセレクトし、作り手たちと交流して生み出した魅力的なアイテムを特設ショップで販売！本展のために作られた別注品なども、手にとってご購入いただけます。

大分の小鹿田焼・坂本浩二窯による、イギリスの陶芸家ルーザー・リーの作品からインスピライアされたかたちの把っ手を付けたジャグ（水差し）。栃木・益子の濱田窯のマグカップ。宮城の仙台木地製作所（佐藤正廣・康広）のこけし。倉吉ガラスsaonのコップ。そのほかMOGIプロデュースによる色や絵柄で別注するアイテムの製作が、国内各地で続々、進行中です。どうぞお楽しみに。

※写真はイメージです。手仕事の商品のため、デザインや仕様が異なる場合があり、また、入荷予定はそれぞれの商品によって異なります。



テリー・エリス/北村恵子



本展に合わせて準備中のスペシャルアイテム。どうぞお楽しみに！

トークイベント：「MOGI Folk Art ディレクターに聞く、豊かな暮らしの作り方」

登壇者：テリー・エリス／北村恵子（MOGI Folk Art ディレクター）

聞き手：北廣麻貴（大阪中之島美術館 学芸員）

開催日時：2023年7月8日(土) 14:00 – 15:30（開場：13:30）

会場：大阪中之島美術館 1階ホール

定員：150名 参加費無料

* 本展覧会観覧券（利用後の半券可）が必要です。当日、ご提示願います。

* 事前申込制 展覧会公式サイト (<https://mingei-kurashi.exhibit.jp/>) のお申込フォームからお申込みください。

お申し込み方法を公開しました

○丹波布でコースター、ミニポーチづくりを体験！ワークショップ券限定販売中

ワークショップ「丹波布にふれて、つくろう」への参加と本展観覧券のセット券を販売中です。

兵庫県丹波地方で作られ、一度は衰退しながらも柳宗悦によってその美を見いだされ、復活を遂げた丹波布。作り手のお話を聞き、手紡ぎならではの手触りや草木染めの色合いを楽しみながら、小物をつくってみませんか。講師は丹波布技術認定者のイラズムス千尋さんです。

A. コースター作り：3,000円（税込）

2023年7月22日（土）

①13:00 — ②15:00 —

（各回とも約1時間・定員20名）

B. ミニポーチ作り：3,500円（税込）

2023年8月20日（日）

①12:00 — ②14:30 —

（各回とも約1時間半・定員20名）

会場：いずれも大阪中之島美術館 1階

ワークショッフルーム

持ち物：裁縫道具（縫い針、はさみ）

●観覧券はワークショップ当日にご覧になれない場合、別の観覧日にご利用いただけます。

●定員に達し次第、販売終了。詳細は展覧会公式サイトをご覧ください。

※写真の作品の柄・デザインはいずれもイメージです。



コースター



ミニポーチ(カードケース大)



Photo: Yuki Ogawa

イラズムス千尋
(いらすむす・ちひろ)

丹波布作家。岡山在住時にウールの糸紡ぎと染織に出会い、丹波市に移住後、丹波布の存在を知り、丹波布伝承館にて布作りを学ぶ。同館講師を務めた後、自宅工房にて、手で紡ぎ草木で染めて織り上げる布にこだわり、日々制作に励む。

「民藝 MINGEI—美は暮らしのなかにある」展覧会概要

展覧会名：「民藝 MINGEI—美は暮らしのなかにある」

会 期：2023年7月8日(土)–9月18日(月・祝)

会 場：大阪中之島美術館 4 F展示室

〒530-0005 大阪市北区中之島4-3-1

開場時間：10:00 – 17:00 (入場は16:30まで)

休 館 日：月曜日 (ただし7/17(月・祝)および9/18(月・祝)は開館)

観 覧 料：一般1,700円 (団体1,500円) 高大生1,300円 (団体1,000円) ※中学生以下は無料

※（）内は20名以上の団体料金

公式サイト：<https://mingei-kurashi.exhibit.jp/>

問い合わせ：大阪市総合コールセンター TEL:06-4301-7285 (受付時間 8:00~21:00 年中無休)

主 催：大阪中之島美術館、朝日新聞社、東映

協 賛：凸版印刷

特別協力：日本民藝館

協 力：静岡市立芹沢銈介美術館、カトーレック

《報道関係者お問い合わせ先》

『民藝 MINGEI—美は暮らしのなかにある』広報事務局 (TMオフィス内) 馬場・永井・西坂

MOBILE:090-6065-0063 (馬場) 090-5667-3041 (永井)

TEL:050-1807-2919 FAX:06-6231-4440 E-mail : mingei@tm-office.co.jp